第２節 東坪中林遺跡の調査

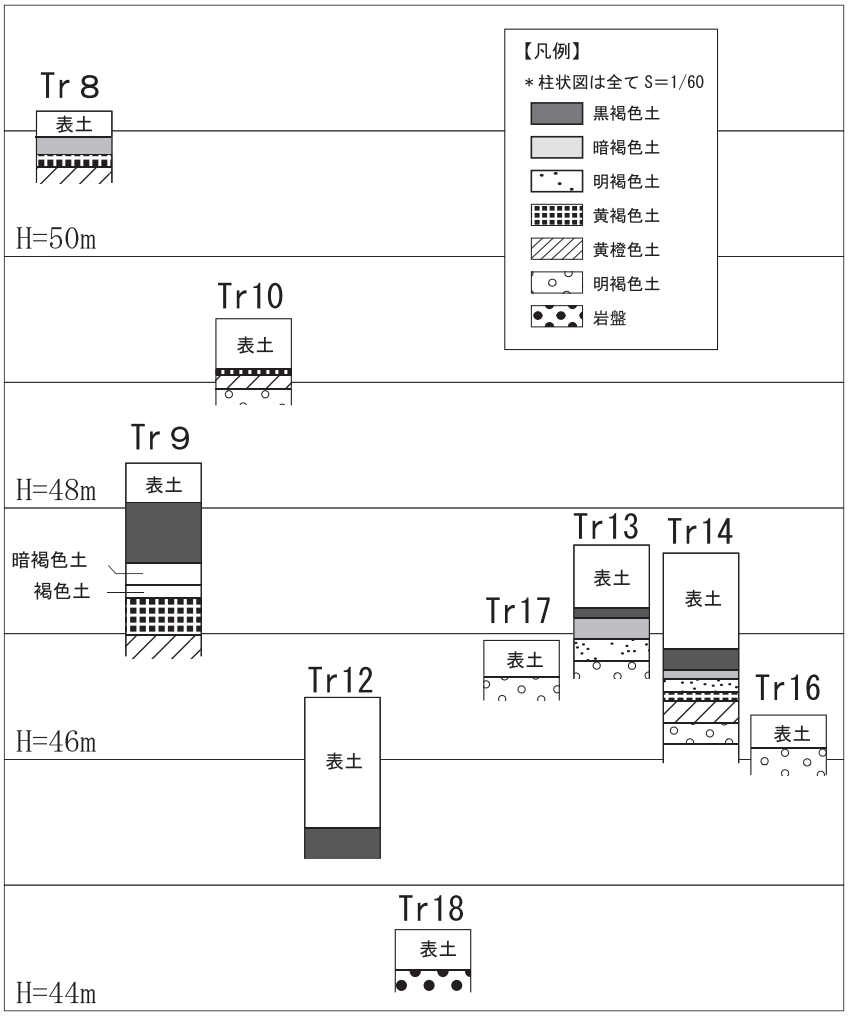
調査地点　大山町東坪字中林3308他

調査期間　平成20年７月14日～平成20年８月21日

調査面積　209.31㎡

調査概要（第 70・71 図、表 24、PL.42・46）

東坪中林遺跡は、大山北麓から日本海へ向けて派生する丘陵上の緩斜面及び、小規模な谷地形に位置する。地表面の標高は約45 ～ 51mである。遺跡の西側には西坪岩屋谷遺跡が隣接する。現況は田・畑が営まれ、耕作地として土地利用されている。調査は、開発予定地に12本のトレンチを設定し行った。調査の結果、調査地は圃場整備によるとみられる大規模な造成がなされ、開発予定地には遺構が現存しないことを確認した。遺物は、表土・造成土から近現代と思われる陶器類が若干出土したのみである。なお、各トレンチの詳細については、表24を参照していただきたい。



第70図　東坪中林遺跡基本層序

表24　東坪中林遺跡トレンチ一覧

トレンチ名	規模(m)	面積(㎡)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	備考
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr８	2×10	20	－	－	－	－	－	－				－	
Tr９	2×10	20	－	－	－				不明	陶器	近現代	－	
Tr10	2×10	20	－	－	－				表土	陶器	近現代	－	
Tr11	2×10	20	－	－	－	－	－	－	表土	陶器 釘	近現代 不明	－	
Tr12	2×11	22	－	－	－	－	－	－				－	
Tr13	1.8×10	18	－	－	－	－	－	－				－	
Tr14	2×10	20	－	－	－	－	－	－				－	
Tr15	2×10	20	－	－	－	－	－	－	造成土	陶器	近現代	－	
Tr16	2×10	20	－	－	－	－	－	－				－	
Tr17	2×5	10	－	－	－	－	－	－				－	
Tr18	1.9×4.9	9.31	－	－	－	－	－	－				－	
Tr19	2×5	10	－	－	－	－	－	－				－	
面積合計		209.31											

第71図　東坪中林遺跡トレンチ位置図

第３節　小竹上鷹ノ尾遺跡の調査

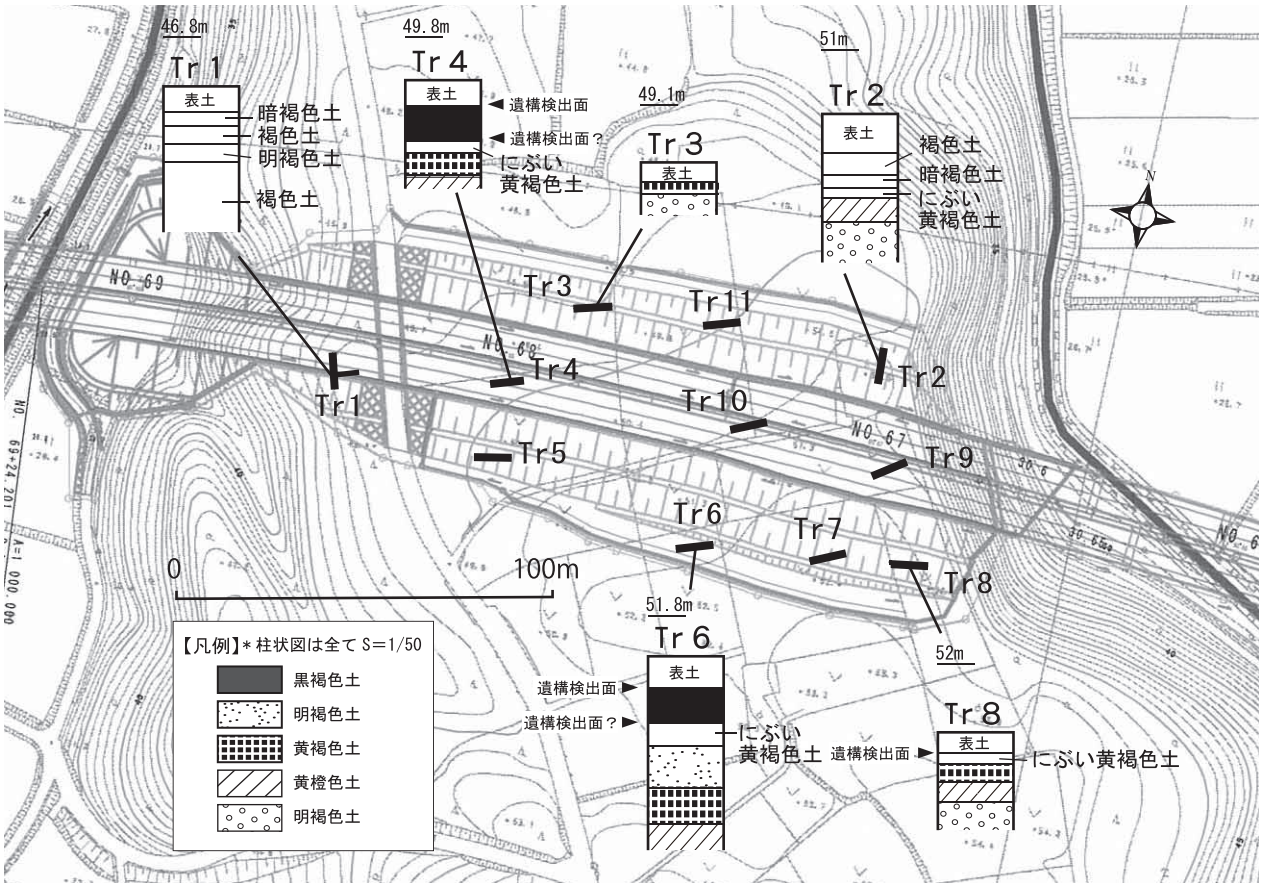
調査地点　大山町小竹字上鷹ノ尾500-1他

調査期間　平成20年９月16日～平成20年10月17日

調査面積　225.6㎡

調査概要（第 72 ～ 78 図、表 25、PL.47 ～ 50・55）

小竹上鷹ノ尾遺跡は、大山北麓からに日本海から派生する丘陵上に所在する。調査対象地は標高46～52mに位置する。地目は山林・畑地で、旧地形は耕作などに伴い改変を受ける。11本のトレンチを設定し調査を行った結果、遺構面２面及び古墳時代の可能性がある遺物の包含層１層を確認し、溝状遺構１条、土坑２基、ピット１基を検出した(詳細は表25のとおり)。遺物は、弥生土器・土師器・



第72図　小竹上鷹ノ尾遺跡トレンチ位置図及び基本層序

表25　小竹上鷹ノ尾遺跡トレンチ一覧

トレンチ名	規模(m)	面積(㎡)	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr 1	2×10＋1×5.6	25.6	－	－	－	－	－	－	表土	弥生土器？	弥生時代	－	－
Tr 2	2×10	20	－	－	－	－	－	－	表土	弥生土器・磁器	弥生時代中期・近世以降	－	－
Tr 3	2×10	20	－	－	－	－	－	－	表土	土師器	中世以降	－	－
Tr 4	2×10	20	P 1	－	不明	①層(黒色土)	土師器	古墳時代？				1層2面	①・②層？上面
Tr 5	2×10	20	－	－	－	－	－	－	撹乱	磁器	近世以降	－	－
Tr 6	2×10	20	SD 1	－	－	①層(黒色土)	－	－	表土	施釉陶器・磁器	中世以降・近世以降	1層2面	②・③層？上面
Tr 7	2×10	20	SK 1	－	－	－	－	－	表土	磁器	中世以降	1面	②層上面
Tr 8	2×10	20	SK 2	－	－	－	－	－		－		1面	②層上面
Tr 9	2×10	20	－	－	－	－	－	－		－		－	－
Tr10	2×10	20	－	－	－	－	－	－		－		－	－
Tr11	2×10	20	－	－	－	－	－	－	表土	陶器	近世以降	－	－
面積合計		225.6											

施釉陶器・陶器・磁器などが出土しており、遺跡が現存することを確認できた。以下、遺構を検出したトレンチについて概要をまとめていく。

Tr４（第73図、PL.48）

調査地西部、標高49.6m付近の平坦地に設定したトレンチである。調査の結果、確認した遺構面数は２面で、Ｐ１を検出している。表土下で黒色土の包含層（①層）を確認し、①層中から古墳時代の可能性がある土師器片を検出した。②層以下は無遺物層となる。

Ｐ１は、①層上面において検出した。検出面での平面形は径44cmの円形で、深さ45cmを測る。柱痕跡は認められず、遺構の性格は不明である。遺物は出土していないが、検出面から古墳時代以降の遺構と判断した。

Tr６（第74図、表26、PL.48・49・55）

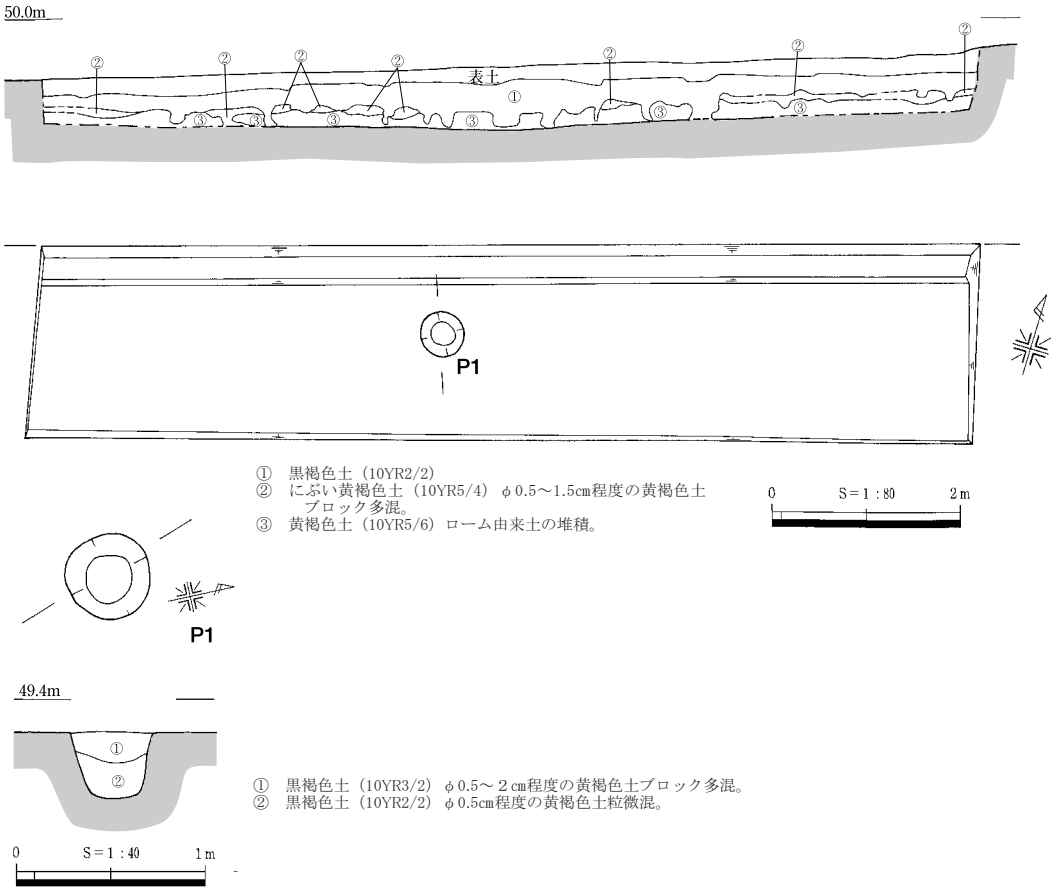
調査地南部、標高51.6m付近に設定したトレンチである。調査の結果、確認した遺構面数は２面で、SD１を検出している。図化した遺物は表土出土の施釉陶器（１）で、中世以降のものと推定される。

表土下で黒色土の包含層（②層）を確認した。土層断面から、本トレンチ西側の旧地形は浅い谷状地形と考えられ、黒色土の包含層（②層）は西に向かってやや厚く残る。③層以下は無遺物層となる。

SD１は、②層上面において検出した。本遺構はトレンチを南北方向に縦断する溝状遺構で、断面は皿状を呈し、検出面における幅は0.96 ～ 1.5m、深さ18 ～ 22cmを測る。埋土に流水の痕跡は見られない。遺物は出土しておらず帰属時期は不明である。

Tr７（第75・77図、PL.49）

本調査対象地のうち、最も標高の高い52m地点に設定したトレンチである。



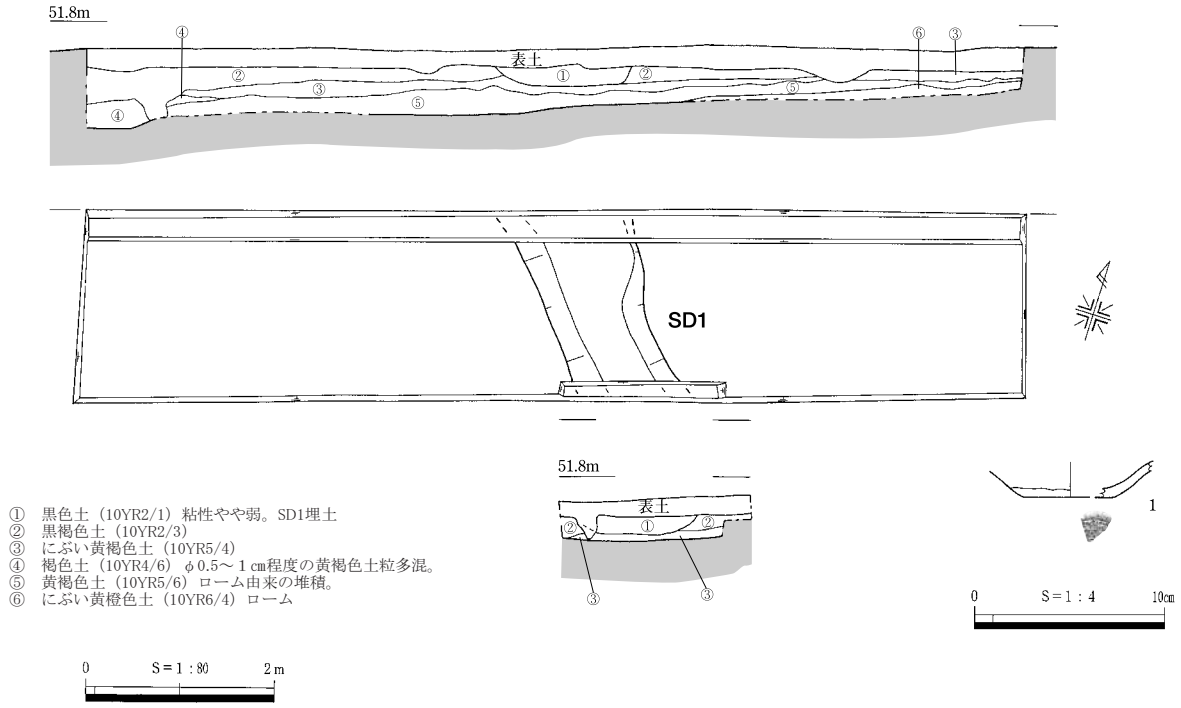
第73図　Tr４

調査の結果、確認した遺構面は１面である。後世の削平が著しく、検出した遺構の上面にまで撹乱が及んでいた。本トレンチでは黒色土系の堆積を確認できていないが、遺構埋土が黒褐色土を主体とすることから、後世の掘削で失われた可能性はある。図化していないが、表土から中世以降と推測される磁器が出土している。

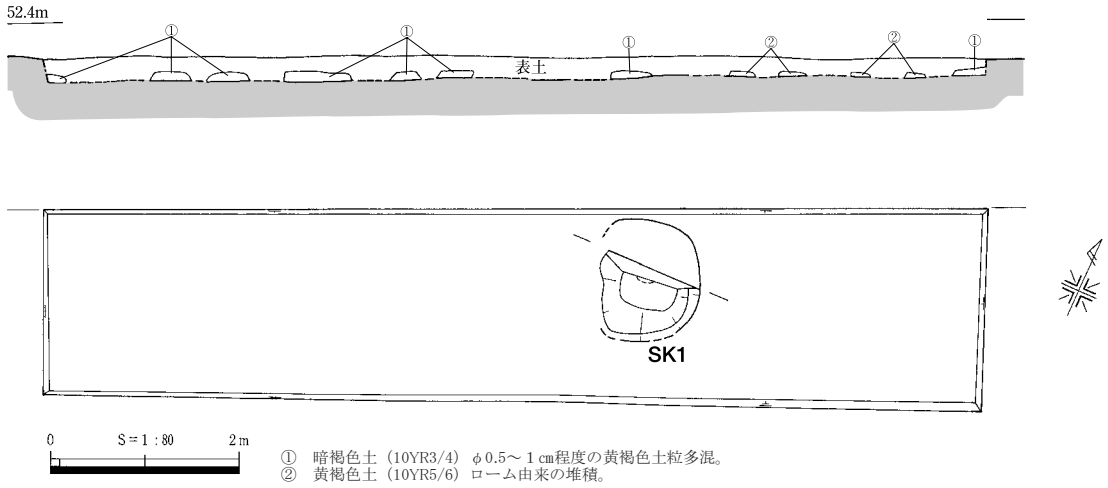
SK１は、表土下、②層上面において検出した。SK１の平面形は長軸1.3m、短軸１mの隅丸長方形で、検出面からの深さは１mである。底面でピットを１基検出している。このピットは完掘しておらず規模は不明である。埋土は黒褐色土を主体とし自然堆積と考える。遺物は出土していないが、平面形態から落とし穴と考える。

Tr８（第76・78図、PL.50）

調査地南東部、標高51.7 ～ 51.8mに設定したトレンチである。本トレンチ周辺は丘陵縁辺部にあた



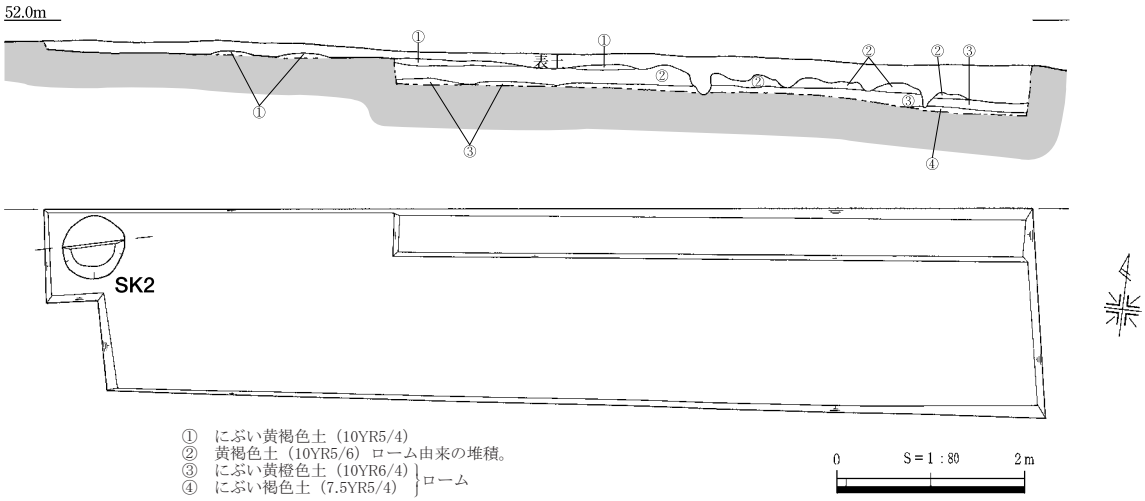
第74図　Tr６



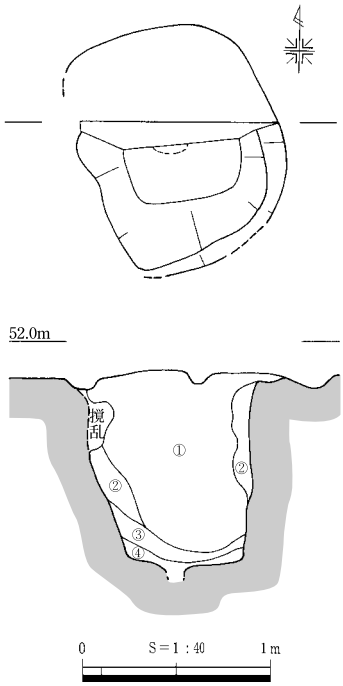
第75図　Tr７

り、北東側は急峻な斜面地となる。調査の結果、確認した遺構面は１面である。

SK２は、表土下すぐに露出する②層上面において検出した。SK２の検出面での平面形は径66㎝の円形で、深さは７㎝を測る。遺物は出土しておらず、帰属時期・性格は不明である。

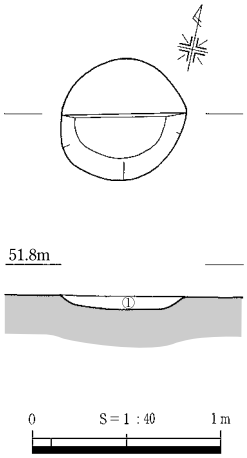


第76図　Tr８



① 黒色土（10YR2/1）φ0.5～２㎝程度の黄褐色土ブロック少混。
② 黒褐色土（10YR3/2）φ0.5～１㎝程度の黄褐色土粒多混。
③ 暗褐色土（10YR3/3）粘性やや強。φ２㎝程度の黄褐色土ブロック多混。
④ 黒褐色土（10YR3/2）締りやや弱。

第77図　Tr７ SK１



① 黒褐色土（10YR3/2）粘性やや弱い。

第78図　Tr８ SK２

表26　小竹上鷹ノ尾遺跡土器観察表

No.	トレンチ 層位名	挿図 PL.	種類 器種	法量(㎝)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	Tr６ 表土	第74図 PL.55	施釉陶器 皿	底径4.8※ 器高1.9△	外面上半施釉、下半露胎。底部回転糸切り。 内面施釉。貫入している。	密	良	外面浅黄色～灰色 内面浅黄色	

第４節　倉谷西中田遺跡の調査

調査地点　大山町倉谷字西中田1443他

調査期間　平成20年８月10日～平成20年10月６日

調査面積　260㎡

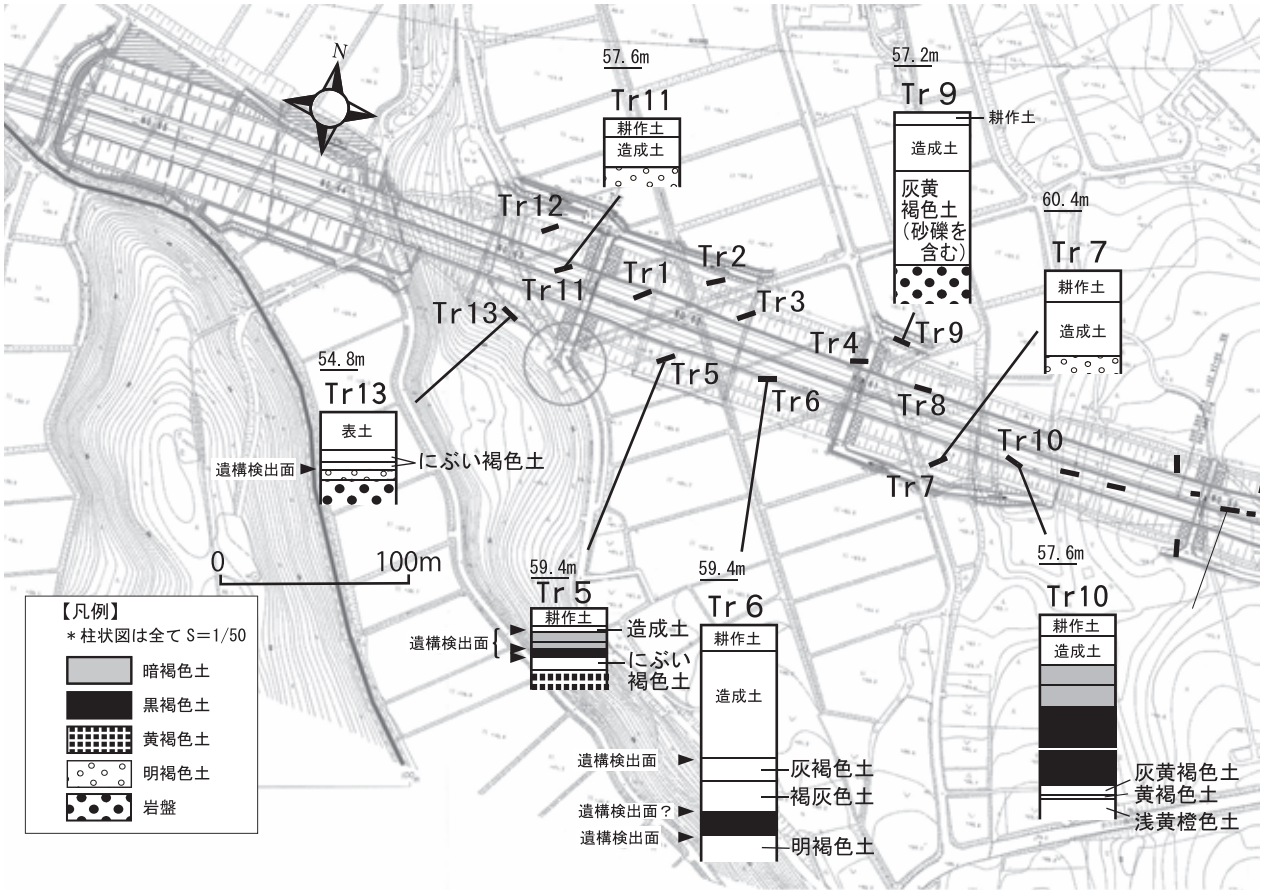
調査概要（第79図、表27・28、PL.51 ～ 56）

倉谷西中田遺跡は、大山北麓から日本海へ向けて派生する丘陵上の緩斜面に所在する。地表面の標高は、約54 ～ 60mである。地目は、畑地・水田・宅地である。調査は、開発予定地に13本のトレンチを設定し行った。調査地は大規模な造成がなされ、地形がかなり改変されているものの、最大３面の遺構検出面を確認し、段状遺構１基・溝状遺構11条・土坑２基を検出した。遺物は弥生時代～近世にかけての土器・陶磁器類のほか、石器、土製品(羽口)、鉄滓、有機質遺物(種子)などが出土し、遺跡が現存することを確認した。なお、各トレンチの詳細については、表27を参照していただきたい。以下、遺構を検出したトレンチについて報告を行う。

Tr１（第80・81図、表29・31、PL51・55・56）

丘陵上に営まれる水田にトレンチを設定した。調査の結果、⑭・⑳・㉙層上面の３面において遺構検出面を確認した。また、⑭・⑮層に中世の遺物を包含する。以下、検出した遺構SD１・２、SK１について概要を述べる。

SD１は、⑭層上面において検出した。主軸は28°西偏し、深さ約1.4mを測る。埋土は主に褐灰色土と黒褐色土が主体となし、自然堆積の様相を示す。遺物は埋土下層より陶器の擂鉢（１）が出土したほ



第79図　倉谷西中田遺跡 トレンチ位置図及び基本層序

表27　倉谷西中田遺跡トレンチ一覧

トレンチ名	規模（m）	面積（㎡）	確認した遺構			確認した包含層			その他の出土遺物			確認した遺構面数等	遺構検出層位
			遺構名	出土遺物	遺構の時期	層位名	出土遺物	時期	層位名	出土遺物	時期		
Tr１	2×10	20	SD１	土師器・須恵器・陶器・砥石	近世	⑭・⑮層（暗褐色土）	土師器	中世	②層（造成土）	土師器	古墳時代	2層3面	⑭・⑳・㉙層上面
			SD２	－	中世以前					陶器	近世		
			SK１	－	中世以前								
Tr２	2×10	20	SD３	土師器・瓦質土器・石（瑪瑙剥片）・種子（梅？）	中世	－	－	－	①層（耕作土）	磁器	中世～近世以降	1面	⑱層上面
									耕作土・造成土	青磁・陶器	中世～近世以降		
									⑯層（造成土？）	陶器	近世以降		
									撹乱土	須恵器	不明		
									層位不明	陶器	近世		
Tr３	2×10	20	SD４	磁器	近世	－	－	－	②層（造成土）	土師器・陶器	古代～近世	2層3面	⑤？・⑧？・⑨層上面
			SD５	－	－								
			P１～５	－	－								
Tr４	2×10	20	－	－	－	－	－	－	①層（耕作土）	陶器	近世	1面	－
Tr５	2×10	20	SD６	須恵器	中世以降	③・④層（暗褐色土）	土師器・須恵器	中世	①層（耕作土）	土師器	中世？	2層3面	③・⑥・⑦層上面
			SD７	－	－	⑥層（黒褐色土）	弥生土器	弥生時代後期	②層（造成土）	土師器・陶器・磁器	中世～近世		
									撹乱土	須恵器	古代		
Tr６	2×10	20	SD８	瓦質土器？	中世	⑭層（灰褐色土）	土師器・瓦質土器・羽口・鉄滓	中世	②層（造成土）	土師器・陶器・磁器・瓦	中世～近世	2層3面	⑭・⑯？・⑲層上面
			SD９	－	－								
			SD10	－	－								
			P６・７	－	－								
Tr７	2×10	20	－	－	－	－	－	－	①層（耕作土）	陶器	近世	－	－
Tr８	2×10	20	－	－	－	－	－	－	層位不明	陶器	近世	－	－
Tr９	2×10	20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
Tr10	2×10	20	－	－	－	－	－	－	①層（耕作土）	瓦質土器	中世	－	－
Tr11	2×10	20	－	－	－	－	－	－	①層（耕作土）	土師器・陶器・磁器	中世～近世	－	－
Tr12	2×10	20	SK２	－	－	－	－	－	①層（耕作土）	陶器・施釉陶器	中世～近世以降	－	－
Tr13	2×10	20	SS１	土師器・須恵器	古代	③層（にぶい褐色土）	青磁？	中世？	①・②層（表土）	須恵器・瓦質土器・陶器・磁器・瓦	古代～近世	1層1面	⑥層上面
			P８	土師器・須恵器	古墳時代後半～古代								
			P９	－	－								
面積合計		260											

か、須恵質の擂鉢（２）、土師器坏（３）、砥石（S１）が埋土中より出土している。本遺構の埋没時期は、出土遺物の年代観より近世以降と考えられる。

SD２は、⑭･⑮層掘削後、⑳層上面において検出し、先行する遺構SK１と重複する。主軸は28°西偏し、深さ約70cmを測る。埋土は暗褐色又は黒褐色のシルトを主体とすることから、滞水していた可能性がある。遺物は出土していない。本遺構の帰属時期は、検出した遺構面から判断し中世以前である。

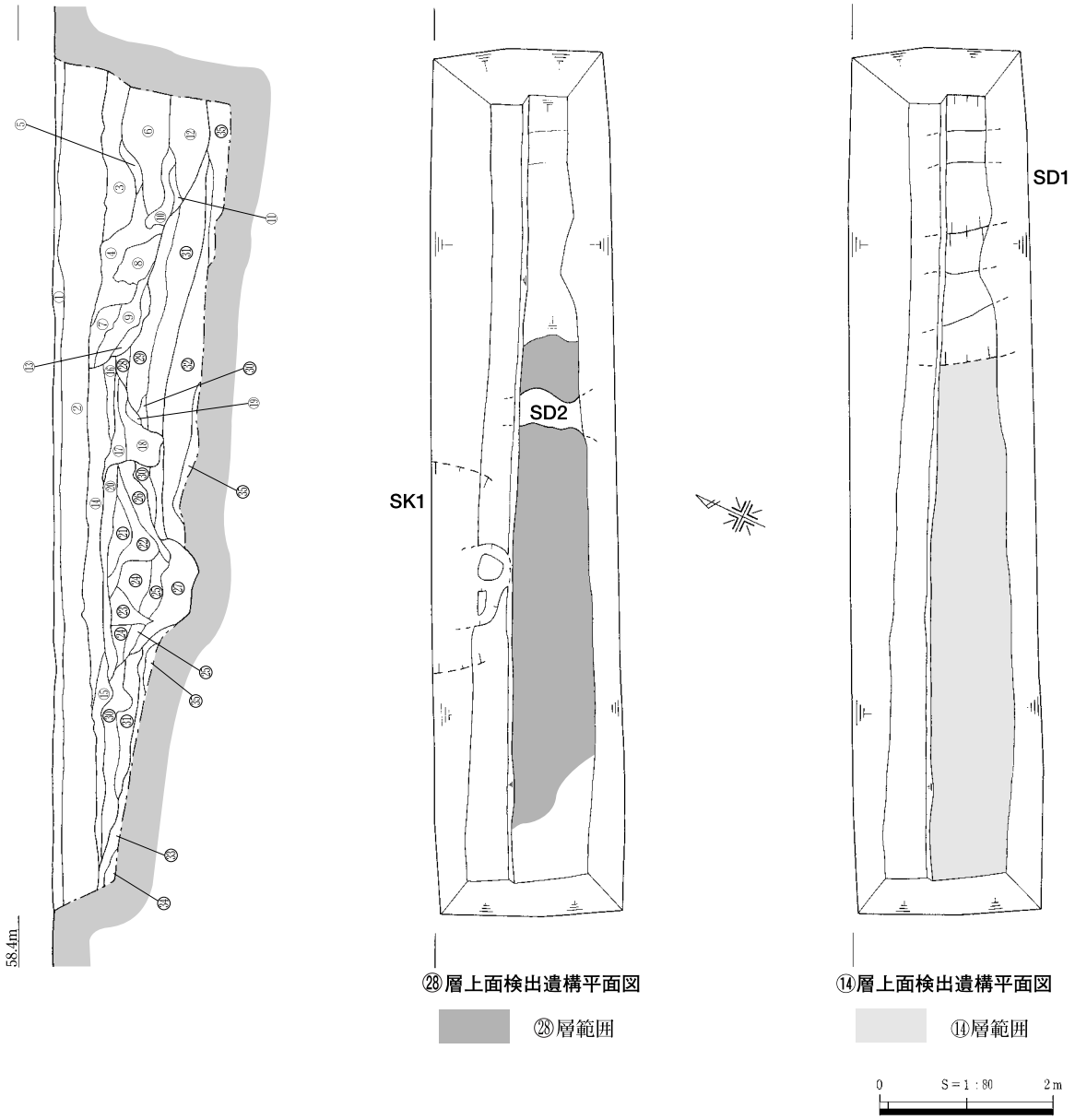
表28　遺構名新旧対照表

トレンチ名	新遺構名	旧遺構名
Tr１	SD１	SD３
	SD２	SD10
	SK１	SK２
Tr２	SD３	SD１
Tr３	SD４	SD９
	SD５	SD12
	P１	P１
	P２	P２
	P３	P３
	P４	P４
	P５	P９
Tr５	SD６	SD２
	SD７	SD15
Tr６	SD８	SD13
	SD９	SD５
	SD10	SD14
	P６	P５
	P７	P６
Tr.12	SK２	SK１
Tr.13	SS１	SS１
	P８	P７
	P９	P８

SK１は、㉙層上面を検出面とする。深さは約1.2mを測り、埋土は黒褐色土である。遺物は出土していない。本遺構は、SD２（中世以前）に先行することを確認している。なお、㉒・㉓層と㉔層の堆積状況から判断し、SK１と重複する遺構が存在する可能性が残る。

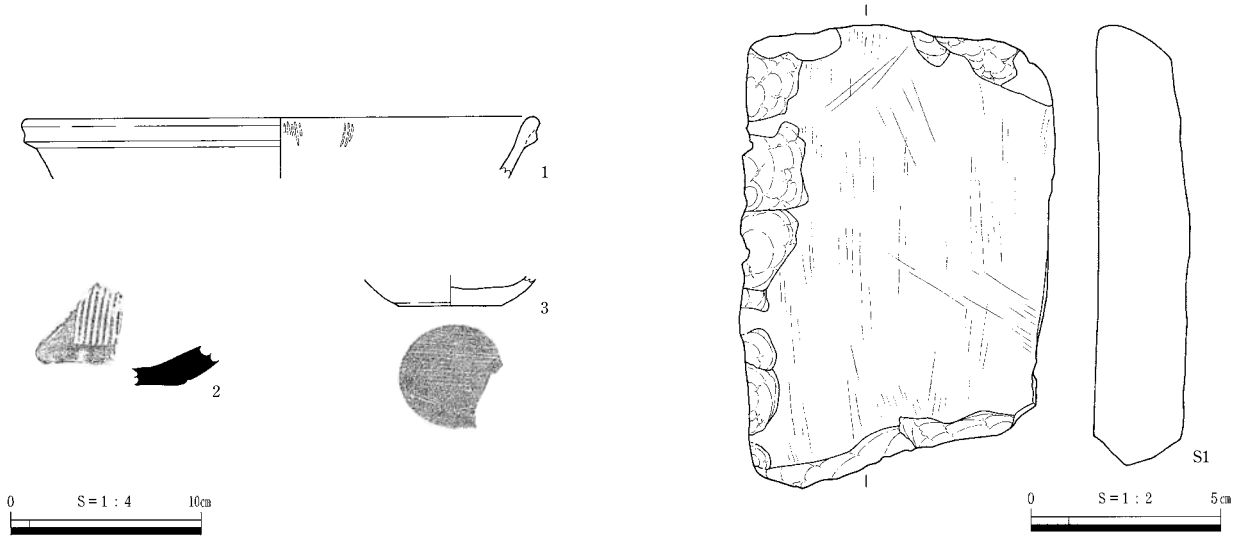
Tr２（第82図、表29～31、PL.51・55・56）

丘陵上に営まれる水田に設定し、調査した。①層は耕作土、②～⑯層は造成土である。⑱層直上において、遺構検出面を１面確認した。包含層は認められない。以下、検出した遺構について概要を述

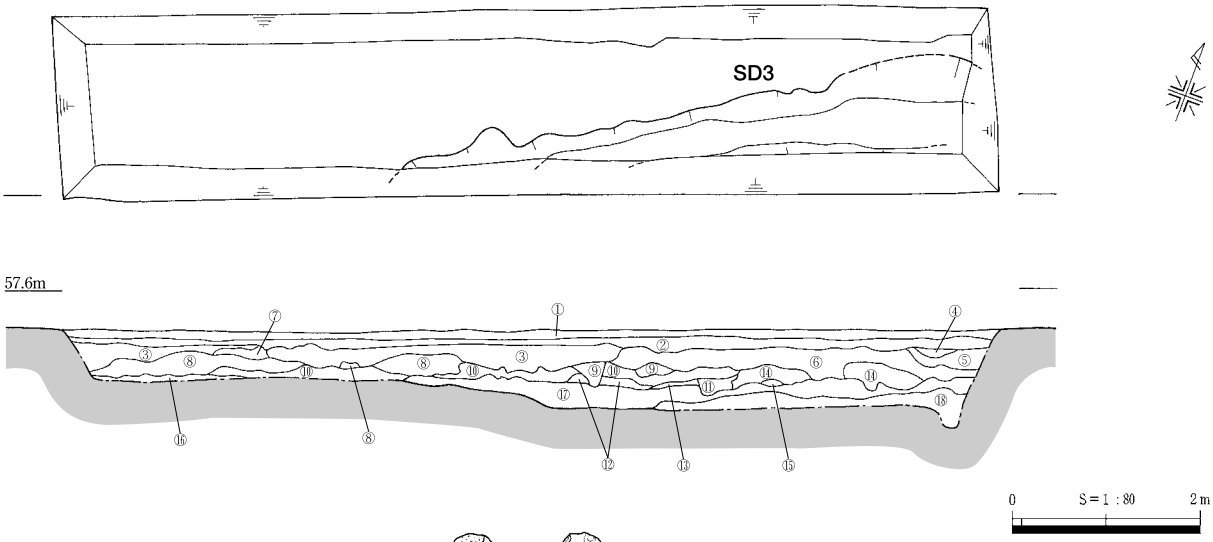


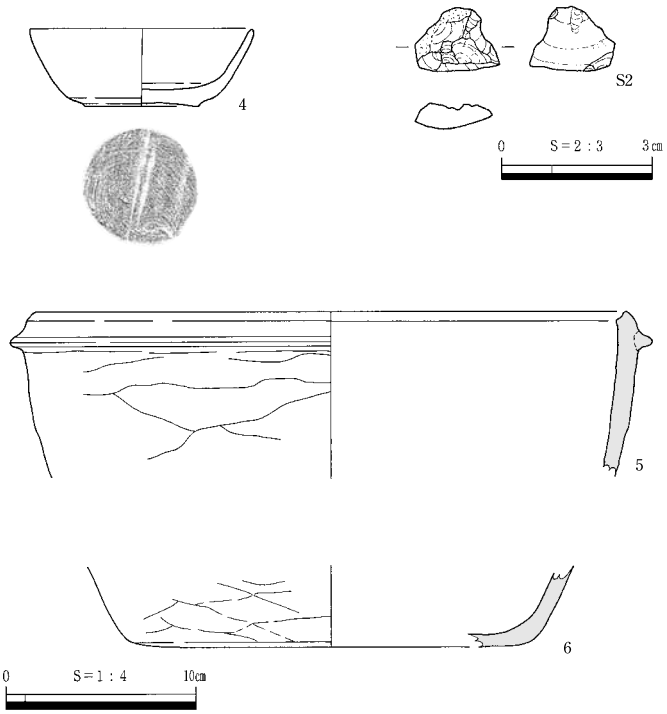
① 耕作土
② 造成土
③ 褐灰色土（7.5YR4/1）φ0.3～５cmのロームブロック混。有機物（藁？）混。締り強。粘性強。
④ 灰褐色土（7.5YR5/2）微細なローム粒・礫多混。締り強。粘性強。
⑤ 褐灰色土（7.5YR4/1）締り強。粘性強。
⑥ 褐灰色土（7.5YR4/1）微細なローム粒・礫混。締り強。粘性強。
⑦ 灰褐色土（7.5YR4/2）微細なローム粒・礫多混。φ１cmの炭化物ブロック少混。締り強。粘性強。
⑧ 暗褐色土（7.5YR3/3）φ0.5cm以下のローム粒混。締り強。粘性強。
⑨ 暗褐色土（7.5YR3/3）微細なローム粒・礫多混。締り強。粘性強。
⑩ 黒褐色土（7.5YR3/1）褐灰色土が斑状に多混。締りやや弱。粘性強。
⑪ 黒褐色土（7.5YR3/1）褐灰色土が斑状に混。締りやや弱。粘性強。
⑫ 黒褐色土（7.5YR2/2）φ１cm以下のロームブロック混。締りやや弱。粘性強。
⑬ 暗褐色土（7.5YR3/3）φ0.3cmのローム粒少混。締り強。粘性強。
（SD1埋土）
⑭ 暗褐色土（7.5YR3/4）φ0.5cm以下のローム粒多混。微細な礫少混。φ１cm以下の炭化物ブロック混。締り強。粘性強。
⑮ 暗褐色土（7.5YR3/3）締り強。粘性強。
（中世包含層）
⑯ 暗褐色土（7.5YR3/4）φ0.3cmのローム粒少混。微細な炭化物粒混。締り強。粘性強。
⑰ 暗褐色土（7.5YR3/3）φ0.3cmの炭化物粒混。締り強。粘性強。
⑱ 暗褐色シルト（7.5YR3/3）φ0.3cmの炭化物粒混。締りやや弱。粘性強。
⑲ 黒褐色シルト（7.5YR3/2）締りやや弱。粘性強。
（SD2埋土）
⑳ 暗褐色土（7.5YR3/3）締り強。粘性強。
㉑ 暗褐色土（7.5YR3/3）φ0.3cmの炭化物粒混。締り強。
（SK1埋土）
㉒ 黒褐色土（7.5YR3/2）φ0.5～１cmのロームブロック少混。φ0.3cmの炭化物粒混。締りやや弱。
㉓ 暗褐色シルト（7.5YR3/3）締りやや弱。粘性強。
㉔ 黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱。粘性強。
㉕ 黒褐色土（7.5YR3/1）締りやや弱。粘性強。
㉖ 黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱。粘性強。
㉗ 黒褐色土（7.5YR3/2）締りやや弱。粘性強。
（SK1埋土）
㉘ 暗褐色土（7.5YR3/3）締り強。粘性強。
㉙ 黒褐色土（7.5YR3/1）締りやや強。粘性強。
㉚ 黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや強。粘性強。
㉛ 黒褐色土（7.5YR3/2）締り強。粘性強。
㉜ 黒褐色土（10YR3/2）締り強。粘性強。
㉝ 褐色土（7.5YR4/3）締り強。粘性強。ローム
㉞ 明褐色土（7.5YR5/6）締り強。粘性強。ローム
㉟ 浅黄橙色土（7.5YR8/4）締り強。粘性強。

第80図　Tr１



第81図　Tr１ SD１出土遺物





① にぶい褐色土（7.5YR5/3）締り弱。耕作土
② にぶい褐色土（7.5YR5/3）φ0.3～１cmのロームブロック多混。締り強。粘性強。造成土
③ 黒褐色土（7.5YR2/2）φ0.3～１cmのロームブロック多混。締り強。粘性強。造成土
④ 黒褐色土（7.5YR3/1）締り強。粘性強。造成土
⑤ 黒色土（7.5YR2/1）締り強。粘性強。造成土
⑥ 黒褐色土（7.5YR3/1）φ0.3～２cmのロームブロック少混。締り強。粘性強。造成土
⑦ 黒褐色土（7.5YR3/1）締りやや弱。粘性強。造成土
⑧ 黒褐色土（7.5YR3/2）φ0.3～４cmのロームブロック少混。締り強。粘性強。造成土
⑨ 黒褐色シルト（7.5YR3/1）有機物（稲藁？等）混。締り弱。粘性強。撹乱（用水路？）
⑩ 黒褐色土（7.5YR3/1）φ0.3～２cmのロームブロック少混。締り強。粘性強。造成土
⑪ 黒褐色土（7.5YR3/1）φ0.5～４cmのロームブロック多混。締り強。粘性強。造成土
⑫ 黒褐色土（7.5YR3/1）締りやや弱。造成土
⑬ 褐灰色土（7.5YR4/1）締りやや強。粘性強。造成土
⑭ 褐灰色土（7.5YR4/1）径１～30cmのロームブロック少混。造成土
⑮ 黒褐色土（7.5YR3/1）締り強。造成土
⑯ 黒褐色土（7.5YR3/1）締り強。造成土
⑰ 黒褐色土（7.5YR3/1）φ0.3～２cmのロームブロック少混。締り強。粘性強。SD3埋土
⑱ にぶい黄橙色土（10YR7/4）締り強。粘性強。ローム

⑯層出土遺物

SD3出土遺物

第82図　Tr２

べる。

⑱層直上において、SD３を検出した。主軸は80°東偏し、深さは約37cmを測る。埋土は黒褐色土の単層である。埋土中より、土師器坏（４）、瓦質の羽釜（５・６）、瑪瑙の剥片（S２）が出土した。４～６、S２はほぼ同一箇所に折り重なるような出土状況を示し、出土レベルは、５・６・S２に比べ、４がやや高い。５・６は出土状況と形態から判断し、同一個体である可能性が高い。また、５・６を取り上げる際に付着した埋土の中より、梅と思われる種子が１点出土した。本遺構の埋没時期は、出土遺物の年代観から中世と考えられる。

Tr３（第83図、PL.52）

丘陵上に営まれた水田に設定した。調査の結果、⑤もしくは⑧層の上面と⑨層上面の２面において遺構検出面を確認した。以下、検出した遺構SD４・５、P１～５について概要を述べる。

SD４はSD５埋没後、掘削される。深さ約50cmを測り、埋土は褐灰色土の単層である。撹乱が著しく判断は困難であるが、検出面は⑤層もしくは⑧層上面と考えられる。遺物は、近世のものと思われる磁器の小片が出土している。本遺構の埋没時期は、出土遺物の年代観より近世以降と思われる。

SD５は、⑨層上面において検出し、埋土は黒褐色土である。深さは約22cmを測る。遺物は出土していない。SD４（近世以降）に先行する遺構である。

P１～５については検出にとどめたため、詳細は不明である。

Tr５（第85図、表30、PL.52・55）

丘陵上に営まれた水田に設定した。調査の結果、③・⑥・⑦層上面において計３面の遺構面を確認した。また、中世の包含層（③・④層）と弥生時代の包含層（⑥層）を確認している。以下、検出した遺構SD６・７について概要を述べる。

SD６は、②層（造成土）除去後、③層上面において検出した。埋土は灰褐色土で、深さは約29cmを測る。遺物は、埋土中より須恵器甕片（９）が出土している。本遺構の帰属時期は、検出した遺構面と出土遺物の年代観から、中世以降と考えられる。

SD７は、Tr５南壁土層断面の⑥層上面において確認した。北壁土層断面では、本遺構の痕跡は確認していない。埋土は暗褐色シルトであり、滞水していたと考えられる。深さは約５cmを測る。遺物は出土していない。遺構の帰属時期は検出面から判断し、上限は弥生時代、下限は中世である。

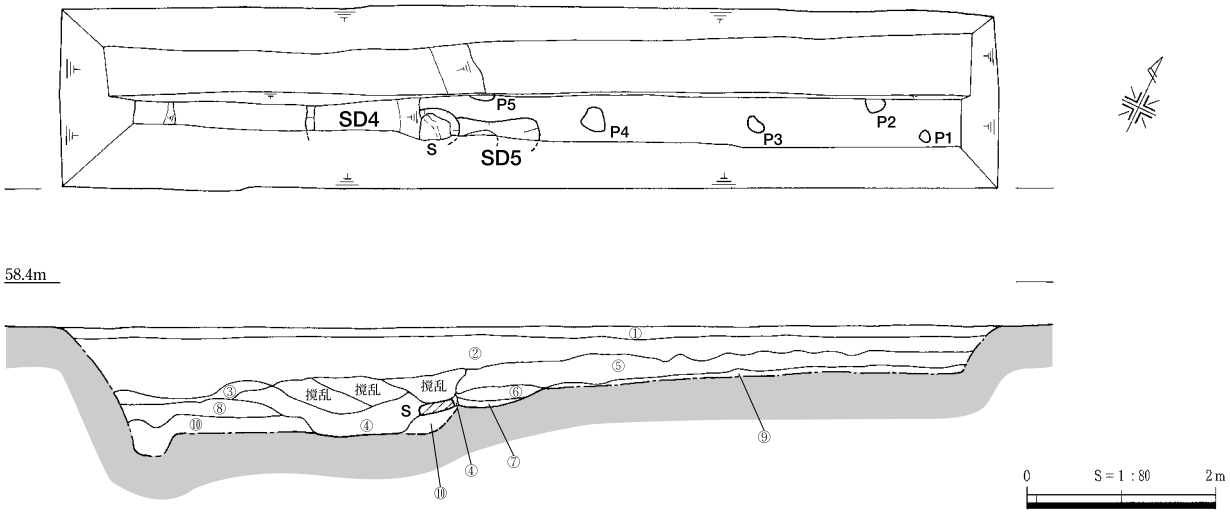
Tr６（第84図、PL.52）

丘陵上に営まれる水田に設定した。調査の結果、⑭層直上及び⑲層直上において、遺構検出面を確認した。また、⑭層は中世の遺物包含層である。以下、検出した遺構SD８～10、P６・７について概要を述べる。

SD８・９は重複し、SD９が先行する。SD８については不明だが、SD９は⑭層上面において検出した。ともに、灰褐色土と褐灰色土が主体となす。SD９埋土中より、瓦質土器の小片が出土している。SD９の帰属時期は、検出した遺構面と出土遺物の年代観から、中世以降と考えられる。SD８については不明である。

SD10は、⑲層において検出し、SD８・９に先行する。埋土は灰黄褐色土である。遺物は出土していない。SD10の帰属時期は不明である。

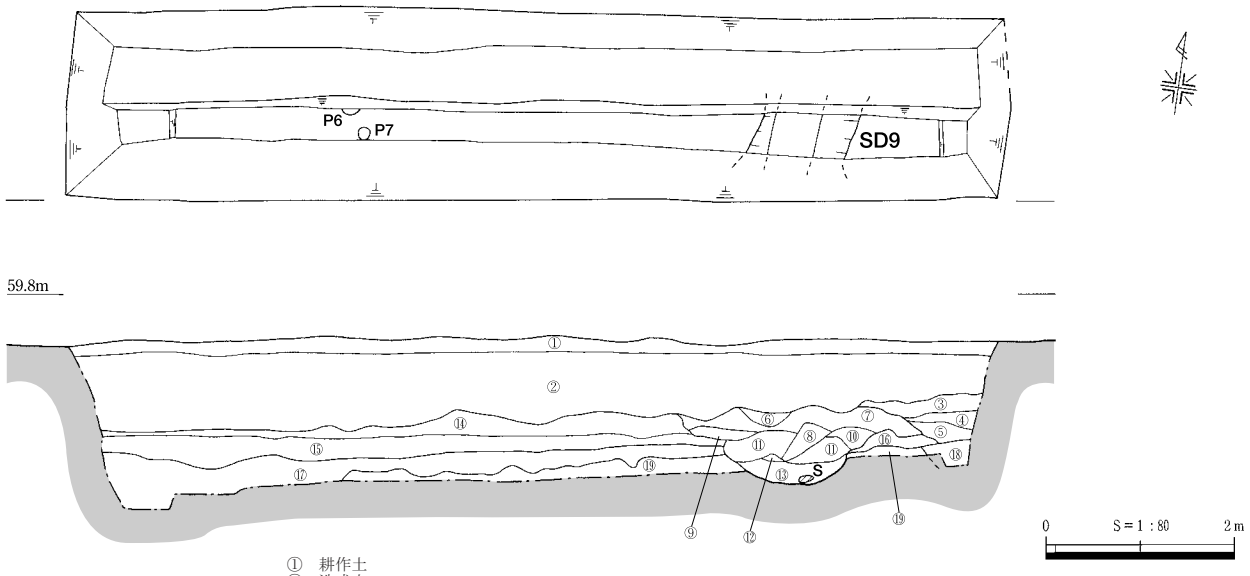
P６・７については検出にとどめたため、詳細は不明である。



① 耕作土
② 造成土
③ 褐灰色土（7.5YR5/1）締りやや弱。粘性強。
④ 褐灰色土（7.5YR4/1）締り弱。粘性強。SD4埋土
⑤ 暗褐色土（7.5YR3/3）φ１cm以下のロームブロック多混。
⑥ 黒褐色土（7.5YR3/2）φ0.3cmのローム粒混。締り強。粘性強。
⑦ 黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱。粘性強。
⑧ 黒褐色土（7.5YR3/1）締り強。粘性強。
⑨ にぶい褐色土（7.5YR5/3）締り強。粘性強。
⑩ 明黄褐色土（7.5YR5/8）締り強。粘性強。ローム

（⑥～⑦：SD5埋土）

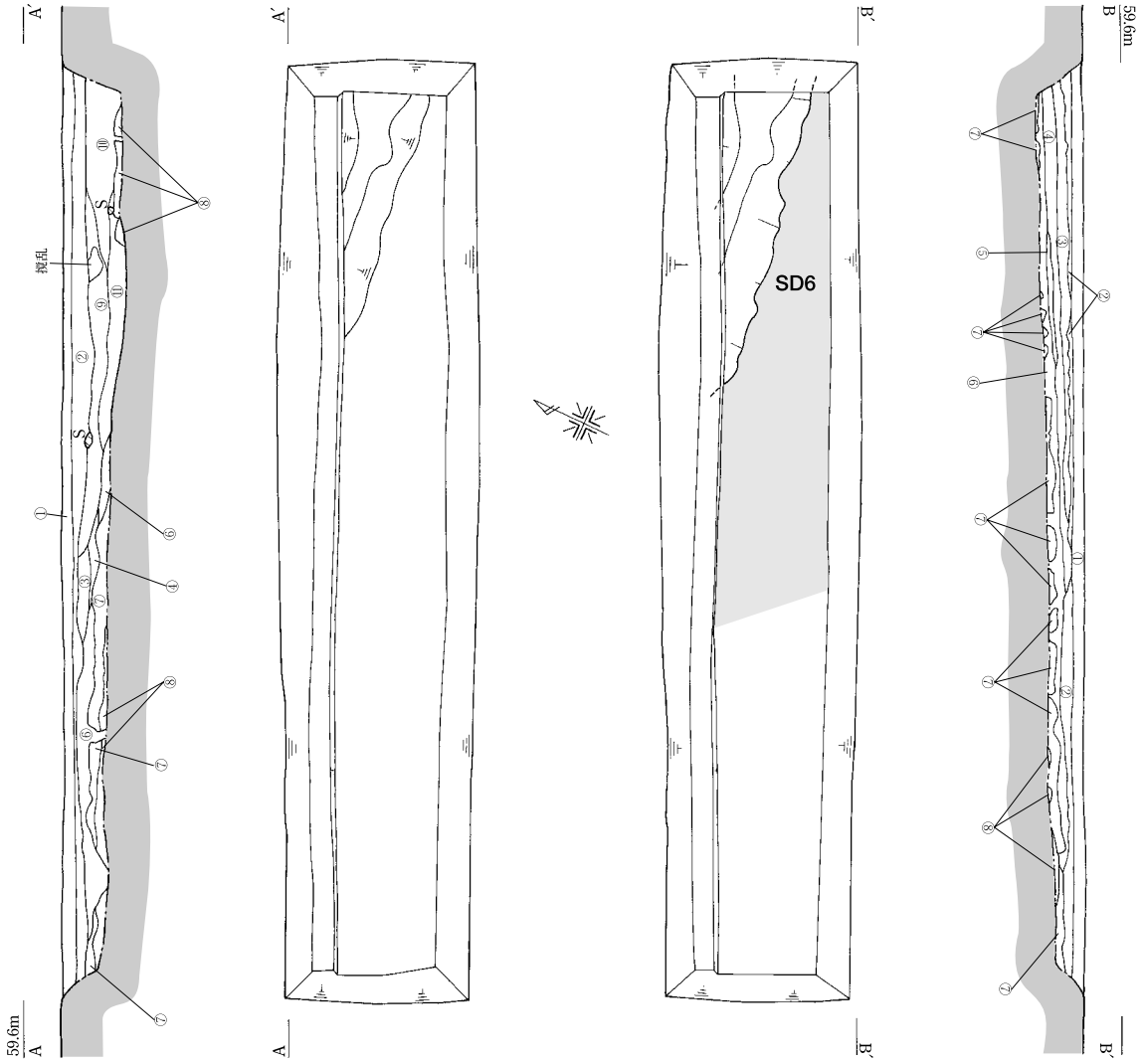
第83図　Tr３



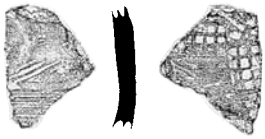
① 耕作土
② 造成土
③ 灰褐色土（7.5YR5/2）φ１～５cmのロームブロック混。締り強。粘性強。
④ 褐灰色土（7.5YR5/1）締り強。粘性強。
⑤ 褐灰色土（7.5YR4/1）締り強。粘性強。
⑥ 褐灰色土（7.5YR/1）締り強。粘性強。
⑦ 灰褐色土（7.5YR5/2）φ0.3～0.5cmのローム粒少混。締り強。粘性強。
⑧ 黒色土（10YR2/1）締り強。粘性強。
⑨ 灰褐色土（7.5YR4/2）有機質混。締り強。粘性強。
⑩ 灰褐色土（7.5YR4/2）締り強。粘性強。
⑪ 褐灰色土（7.5YR5/1）締り強。粘性強。
⑫ 灰褐色土（7.5YR5/2）締りやや弱。粘性強。
⑬ 灰褐色シルト（7.5YR5/2）φ１cm以下のロームブロック多混。締りやや弱。粘性強。
⑭ 灰褐色土（7.5YR5/2）締り強。中世包含層
⑮ 褐灰色土（7.5YR5/1）締り強。
⑯ 黒色土（10YR2/1）締り強。
⑰ 黒色土（10YR2/1）締り強。
⑱ 灰黄褐色土（10YR4/2）締りやや弱。粘性強。SD10埋土
⑲ 明褐色土（10YR6/6）締り強。ローム

（③～⑤：SD9埋土　⑥～⑬：SD8埋土）

第84図　Tr６



⑥層出土遺物



③・④層出土遺物

0　S＝1：4　10cm

① 耕作土
② 造成土
③ 暗褐色土（7.5YR3/4）φ0.5cmのローム粒多混。微細な礫混。締り強。
④ 暗褐色土（7.5YR3/3）φ0.3cm以下のローム粒多混。微細な礫混。締り強。
}中世包含層
⑤ 暗褐色シルト（7.5YR3/3）φ0.3～１cmのロームブロック多混。締りやや弱。粘性弱。SD7埋土
⑥ 黒褐色土（7.5YR2/2）締りやや弱。粘性強。弥生時代後期包含層
⑦ にぶい褐色土（7.5YR5/4）やや弱。ローム漸移層
⑧ 黄褐色土（10YR5/8）締り強。ローム
⑨ 灰褐色土（7.5YR6/2）微細な礫混。締り強。粘性強。
⑩ 灰褐色土（7.5YR5/2）φ0.3cmの礫混。締り強。粘性強。
⑪ 灰褐色土（7.5YR4/2）φ0.3cmのローム粒少混。微細な礫混。締り強。粘性強。
}SD6埋土

第85図　Tr５